

[水稲部門 令和3年度 指導参考資料]

事項名	水稲の高密度播種苗移植栽培におけるフィプロニル粒剤の箱施用によるコバネイナゴの防除法																							
ねらい	高密度播種苗移植栽培は育苗箱の使用枚数を削減できる技術だが、従来の薬剤の箱施用では10a当たりの薬量も減少するため、防除効果が低下する懸念があった。そこで、フィプロニル粒剤を箱施用(50g/箱)し、コバネイナゴに対する防除効果を検討した結果、安定した効果が認められたので、参考に供する。																							
指導参考内容	<p>1 高密度播種苗移植栽培で箱当たり50g施用すると、10a当たり薬剤投下量は中苗移植栽培に比べ3～4割減少するが、防除効果の低下は見られない(表1、図1～3)。</p> <p>2 高密度播種苗移植栽培において、フィプロニル粒剤を箱当たり50g移植当日に育苗箱施用することで、安定的にコバネイナゴの防除ができる(図1～3)。</p> <p>3 使用基準等</p> <table border="1" data-bbox="379 752 1206 1144"> <tr> <td>薬剤名</td> <td>プリンス粒剤</td> <td>Dr. オリゼプリンス粒剤 6</td> </tr> <tr> <td>殺虫成分</td> <td>フィプロニル 1.0%</td> <td>フィプロニル 0.6%</td> </tr> <tr> <td>IRAC</td> <td>2B</td> <td>2B</td> </tr> <tr> <td>使用量</td> <td colspan="2">育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5リットル) 1箱あたり50g</td> </tr> <tr> <td>使用時期</td> <td>播種前～移植当日</td> <td>緑化期～移植当日</td> </tr> <tr> <td>使用回数</td> <td colspan="2">1回</td> </tr> <tr> <td>総使用回数</td> <td colspan="2">1回</td> </tr> </table>			薬剤名	プリンス粒剤	Dr. オリゼプリンス粒剤 6	殺虫成分	フィプロニル 1.0%	フィプロニル 0.6%	IRAC	2B	2B	使用量	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5リットル) 1箱あたり50g		使用時期	播種前～移植当日	緑化期～移植当日	使用回数	1回		総使用回数	1回	
薬剤名	プリンス粒剤	Dr. オリゼプリンス粒剤 6																						
殺虫成分	フィプロニル 1.0%	フィプロニル 0.6%																						
IRAC	2B	2B																						
使用量	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5リットル) 1箱あたり50g																							
使用時期	播種前～移植当日	緑化期～移植当日																						
使用回数	1回																							
総使用回数	1回																							
期待される効果	高密度播種苗移植栽培における害虫防除法として、簡易に実施でき、かつ低コスト化が期待できる。																							
利用上の注意事項	<p>1 本資料は令和3年1月8日現在の農業登録内容に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の農業登録内容を確認して使用者の責任のもとに使用すること。 「農薬情報」(https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/) 「農薬登録情報提供システム」(https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更された農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用すること。</p> <p>3 播種量240～250g/箱(乾籾)の高密度播種苗で実施した試験結果である。</p> <p>4 他の病害虫や、他の薬剤については効果が異なる可能性がある。</p>																							
問い合わせ先(電話番号)	農林総合研究所 病虫部 (0172-52-4314)	対象地域	県内全域の稲作 及び経営体 経営体																					
発表文献等	平成30～令和2年度 農林総合研究所試験成績概要集																							

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 薬剤の10aあたり投下量 (平成30～令和2年 青森農林総研)

年次	薬剤実投下量(g/10a)		減少率(%)
	中苗	高密度播種苗	
H30	1200	700	41.7
R1	1125	755	32.9
R2	940	625	33.5

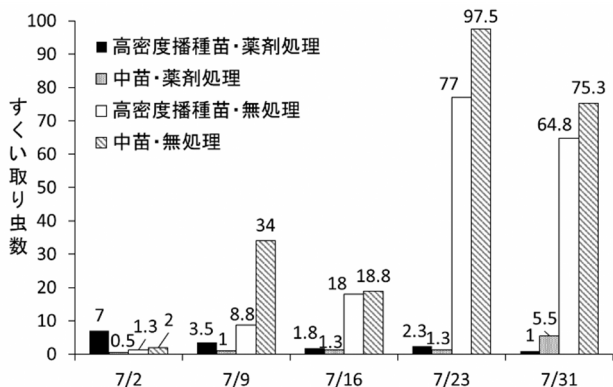


図 1 フィプロニル粒剤のコバネイナゴに対する防除効果 (平成30年 青森農林総研)

(注) 品種:「まっしぐら」 播種:高密度播種苗:5月1日(乾籾250g/箱)、中苗:4月12日(乾籾100g/箱) 移植:5月23日、供試薬剤:フィプロニル粒剤(プリンス粒剤) 使用箱枚数:高密度播種苗:約14枚/10a 中苗:24枚/10a 虫数は4反復平均値

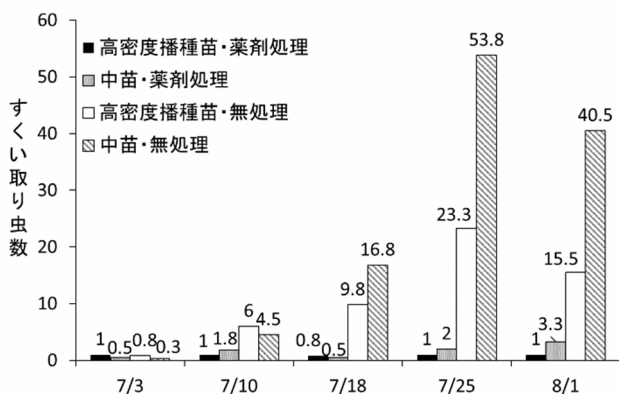


図 2 フィプロニル粒剤のコバネイナゴに対する防除効果 (令和元年 青森農林総研)

(注) 品種:「まっしぐら」 播種:高密度播種苗:5月8日(乾籾250g/箱)、中苗:4月12日(乾籾100g/箱) 移植:5月30日、供試薬剤:フィプロニル粒剤(プリンス粒剤) 使用箱枚数:高密度播種苗:約15.1枚/10a 中苗:22.5枚/10a 虫数は4反復平均値

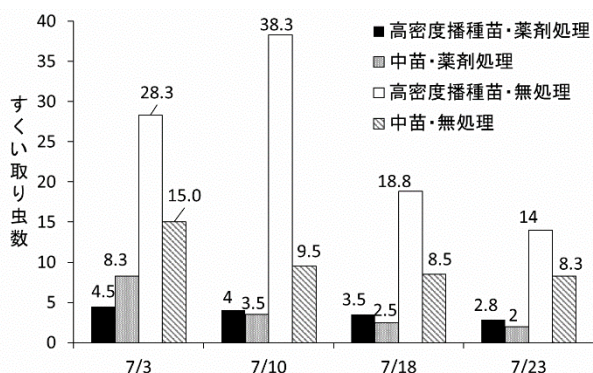


図 3 フィプロニル・プロベナゾール粒剤のコバネイナゴに対する防除効果

(令和2年 青森農林総研)

(注) 品種:「まっしぐら」 播種:高密度播種苗:4月28日(乾籾250g/箱)、中苗:4月13日(乾籾100g/箱) 移植:5月18日、供試薬剤:フィプロニル・プロベナゾール粒剤(Dr. オリゼプリンス粒剤6) 使用箱枚数:高密度播種苗:約12.5枚/10a 中苗:約18.8枚/10a 虫数は4反復平均値